

第20回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	「誕生日に誕生日をお祝いしよう」
副 題	みんなで一緒にハッピーバースデー

フリガナ	ケアセンターイチカワ
施 設 名	ケアセンターいちかわ
フリガナ	カイゴフクシシ イチノセヒロミ
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 一瀬ひろ美
フリガナ	ショクインイチドウ
共同研究者	職員一同

【はじめに】

誕生日という物は誰にとっても、幾つになっても特別な物である。在宅で生活していたのなら、誕生日には家族からのプレゼントや「おめでとう」の言葉。家族の一員としてのお祝いの行事であり、久しぶりに家族が集う良い機会となっていたのかもしれない。しかし、利用者様の現状は、誕生月にその月の誕生者様全員を一緒にお祝いする誕生会と、赤飯やケーキの提供、職員からの誕生日カードのお祝いだけである。「誕生日だから」と面会に来られるご家族様も稀である。それでも、誕生会での利用者様は一人ひとりが紹介されると、とても良い笑顔を見せてくれる。その特別である誕生日を、離れて生活していてもお互いが家族の一員である事の再認識として、誕生日に家族からお祝いされる喜びと、お祝いをしてあげたいという思いやりの気持ちを、分かち合えるようご家族様と一緒に利用者様の誕生日をお祝いする取り組みをしたので発表したいと思う。

【実施方法】

・対象者は長期利用者様のみとし、感染予防対策期間の明けた4月より開始し、8月までの計15名とする(7月は誕生者様無し)。・2～3名の職員が担当しご家族様へ連絡する。誕生日前後の可能な日に来所して頂き一緒にお祝いをする。・写真を撮り利用者様のところへ飾る。・終了後にご家族様にアンケートを書いて頂く。・お祝いの後は担当者が写真とお礼状をご家族様へ郵送する。・了解を得た上で施設内に誕生会の写真を貼り出す。・職員への周知は、SS内カレンダーにその日の誕生者様、ご家族様との誕生会の日程を記入する。当日には担当者が朝礼で予定を発表し、職員が各々声かけを行う。・誕生日当日には全利用者様、職員が集まる場で誕生者様の紹介と皆で“ハッピーバースデー”を唄ってお祝いをする。

【実施の様子】

A様男性・74歳・言語障害あり。妻B様も一緒に入所中である。決して仲の良いとは言えない父子で面会は殆どない。息子様の姿に気が付くと驚きながら笑顔へ。言葉は上手く話せないが嬉しそうに何度も頷いていた。「親子3人で誕生日をお祝いするなんて

いつぶりだろう」と感慨深げで、ほっこりした誕生会であった。「こんな機会を作ってもらって良かったです」と息子様より。

C様・女性・97歳。娘様2人がよく面会に来られている。ケーキを持参された。「ありがとう」と喜びの涙を流し、職員へ「食べるし」と気遣ってくれた。「昔はこういう人だった…」と、娘様より話を伺うことができた。入所前の生活や性格を深く知ることとなった誕生会であった。

D様・男性・84歳。独身でいつもは間食もされず無口で部屋に籠りがち。キーパーソンの弟様夫婦は体調不良等を理由に拒否気味であったが、ご夫婦2人で5号のケーキと孫様からの手紙を持参された。終始笑顔のD様は周囲から止められるほどの食欲で、その日の内に一人で完食された。甘党で大食漢だったと意外な一面を知った誕生会であった。

【まとめ】

今回4ヶ月弱の実施であったが担当することで利用者様、ご家族様と話をする機会が多くなり、打ち解ける事ができた。意外な一面や笑顔が見られたり、蟠りが解けていく場面にも立ち会う事もできた。私達が送ったお礼状に、感謝の言葉が綴られたお礼状が届いたり、良い試みができたと感激した。アンケート結果からも来所への負担はなく、「こんな事がないと来れなかった」「これからも続けてほしい」との意見が多く、ご家族様にも満足して頂けたと思われる。利用者様には認知症の方も多く、お祝いの記憶は一瞬であったかもしれないが、その時に見せてくれた笑顔や「ありがとう」「良かったよ」の言葉は素直な気持ちの表れであり、その笑顔や言葉がご家族様、私達職員の介護への原動力となっている。誕生会後より面会の回数や時間が増えたり、皆でハッピーバースデーの歌を唄いながら、手拍手する利用者様も増えてきたりと対応に変化が見られてきた。今後の継続を望まれる意見が多くあり、感染予防期間中の対応をどうするのかは課題であるが、より多くの笑顔を見れる様に、より良い介護をする為にも、“皆でハッピーバースデー”を続けて行きたい。

